

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1010701066		
法人名	社会福祉法人ほたか会		
事業所名	グループホームあおなし		
所在地	前橋市青梨子町1670		
自己評価作成日	平成29年8月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ボランティアの受け入れを月に1回とし特に、地域の団体様や馴染みのある団体様、新規での受け入れを行い交流が図れるように努めております。施設内の行事として継続的に、「手作り夕食」や「手作りおやつ」を行っております。メニューを決める時には、入居者様に作り方を伺ったり、運営推進会議の中で、ご家族様からの要望で食したいメニューを盛り込んで、施設全体でも楽しみとなっている行事でもあります。入居者様、職員、ご家族様の参加もあります。地域の行事の参加にも力を入れており、敬老会や納涼祭など自治会長様のご協力も頂き、参加しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念をもとに、利用者の発語を受け止めて、どら焼きをつくらせたり、家族に演奏してもらい機会をつくらせたり、家族との再会にむけて働きかけたり、その実現に努めている。また、発語だけでなく、行動には意味があると捉え、職員で話し合いながら本人本位に検討している。生活のなかでは、各都道府県のご当地メニューを利用者と一緒作り食べたり、入浴フェアを称して掲示したりして、食事や入浴を楽しめるように支援している。その他、運営推進会議では、地域の方や家族に施設見学や食事の試食・パワーポイントを使った事例発表などを行い事業所の取り組みを伝え意見の聴取を図るとともに、アンケート調査を実施して結果を公表し、サービス向上へと繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義と法人の理念を踏まえた運営理念を作り、それを基にした目標を毎月掲げ、職員はそれに従い業務にあたっています。	法人の理念「ありがとうを大切にしたい」をもとに、管理者は年間計画と毎月の「交通安全を守る」などの重点目標を決めて、朝礼時に職員へ理念とむすびつけて伝え注意喚起をして、実現にむけて取り組んでいる。毎月の全体会議では、その月の目標にむけた評価を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される文化祭へはご入居者様の作品を出展させて頂き、納涼祭やその他イベント(廃品回収やどんど焼きなど)へ参加させて頂いております。	地区の文化祭に利用者の習字や詩を出展し、見学に出かけたり、廃品回収やどんど焼きなどには利用者1~2名と参加したりしている。その他、管理者は地区の会合に出席して、地域とのつきあいに努めている。現在、いきいきサロンへの参加にむけて取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様に、ホームを知って頂くことで、認知症の理解を深めていけるよう、ホーム内行事への参加を呼び掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事への参加やご入居者様へ提供している食事を召し上がって頂いたり、開催の都度、ご意見を伺いサービス向上に活かしています。	会議は、毎月テーマを決めて、グループホーム大会で事例発表した内容をパワーポイントを使って行ったり、事業所の食事を試食してもらったりして、事業所の取り組みを伝えることで意見の聴取に努めている。議事録は、参加者の発言を記録したものを作成し、欠席した方にもわかるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前橋市主催の集団指導に参加しています。前橋市のホームに対する実施指導も、サービスの質に関する確認が中心となっています。	市主催の時事にあった不審者への対処方法や洪水への対策などの情報提供を受け、研修に参加している。市からのアドバイスをうけて、運営推進会議の開催方法や議事録の検討を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	群馬県や地域密着型サービス連絡協議会開催のシンポジウム、法人内の研修に参加し、理解を深めております。玄関の施錠については、訪問行事の際に玄関の扉を開放しております。	法人内研修の他、事業所での研修を毎月行うなかに、身体拘束禁止として取り入れている。その他、外部研修に交替で参加している。管理者は身体拘束をしないケアのため、利用者の行動は意味があるサインであることを伝え、その意味を考えるように指導して、行動を制限しないように努めている。玄関は安全上施錠している。	研修で身体拘束についての知識や理解を深めているが、施錠が常態化しないように、鍵をかけない暮らしの大切さなどを話し合う機会づくりに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人で行っている研修に参加しています。ケアの内容を変更する際も、虐待に相応しいか、検討しています。漫然としたサービス提供が見過ごされないよう職員のユニット異動等で、環境への配慮をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当法人内の研修センターでの定期的な研修に参加しています。ご家族様から相談があった際は、随時対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約締結・解除の際は必ず、利用者代理人であるご家族様及び、ご利用者にホームに向いて頂き、管理者が直接、希望・要望・質問を伺う事しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族からの意見や要望については、記録に残し、職員へ連絡帳と申し送り、会議等で情報を共有し、サービスの向上に努めています。ご家族へ年1回の施設サービスアンケート調査を行い、結果については各ユニットに掲示しています。	管理者は、特に状態変化に注視してすぐに家族に状態を伝えるようにしており、面会時には管理者が対応できるようにして、意見が言える関係づくりに努めている。意見があれば、関係機関の他、法人内にも第三者委員を設けている。毎年施設アンケートを行い、結果を郵送及び掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、定時報告で意見・提案を聞く機会を設けています。月1回の全体会議では質疑応答の時間を設け、質問だけではなく提案も受け、業務改善、サービスの向上に努めています。	管理者は、職員の観察力が気づきにつながると職員を意見を大切に考えて、会議で意見を聞く機会を設けている。職員は、接遇やレクリエーションなど担当があり、それぞれの担当の役割を通じて運営に関わっている。その他、管理者は、職員の態度や表情をみて、対話に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件に基づいて段階的なスキルアップが出来ると共に、賃金水準を全職員に示し、職員個々の目標に応えた職場環境に努めております。また、地域密着型サービス連絡協議会の事例発表会に参加し、他の施設の事例を学ぶことで自施設でのケアに取り入れ更には、法人全体の事例発表会にて成果発表を行う機会もあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修に参加し、認知症への理解を深めたり、地域密着型サービス連絡協議会の事例発表会に参加しています。他施設の事例を学ぶことで、当施設で足りない事や取り入れたいことを聞き、意識の向上や職場環境の設備に努め、法人全体の事例発表会、介護技術コンテストに参加し、成果を発表を行う機会もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会に設立当初から加盟しており、地域の同業者との交流があります。年1回の事例発表会には必ず参加し、交流を図りサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階で、本人・ご家族様へ要望などを伺います。希望や性格などを伺い、入居時の環境づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでの様々な機会、意向確認させて頂き、どうあって欲しいか、丁寧に聞き取り、ご本人の思いをケアプランに活かしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けた段階で、本人と家族がどのような支援を必要としているか伺い、それによりグループ内の施設を紹介させて頂くなど、当施設に固執することなく柔軟に対応させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ただいま」「お帰りなさい」と外出から戻られた際に、言い合えるよう日頃の散歩や洗濯物・食事作りなど職員と共同できるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会やご家族様の意向にて、外泊・外出も実施しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は面会カードへ記入いただき、馴染みの方の面会にも対応している。外出・外泊も対応させて頂いております。	認知症の進行により面会がスムーズにいかない場合には、職員が間に入り面会者の気持ちが落ち込まないように対話をし、次の面会につなげている。利用者の発言から、家族に働きかけて家族との再会につなげるなど、利用者の思いを大切に支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いご入居者様同士を同じテーブルにしたり、対象のユニットに関わらず、ユニットを順番に回りながら、レクリエーションを楽しんで頂いております。散歩も一旦集合し実施したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居された場合は退院後に、施設利用の希望があれば、関連事業所も含め相談・支援に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを通じて職員による意見交換を行い、日頃の言動・行動の中にどのようなサインがあるか把握し、どのような場面でケアに反映することが出来るか、検討している。	利用者の発語から、行事に落語を取り入れたり、家族との再会につなげたり、思いの実現に努めている。利用者の行動は意味のあるサインであると指導して、行動から意味を探っている。また、事業所での生活を通して、得意な詩を事業所内に掲示したり、食事前の準備などやりたいことに関わってもらったりなど、意向にそって力を発揮してもらった場面づくりをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご家族様とお話の中で、生活歴やこれまでの暮らし方などを確認し、これまでの生活環境を再現できるよう把握し、その情報をカルテ内に掲載し、職員間で情報共有に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月実施しているカンファレンスで、その方がどんな事に意欲があるか、ご本人が発している日々の発言・行動を見落とさないように観察し、日々の申し送りなどで情報を共有し、その人らしく生活が出来るように把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の面会時に状態報告と共に、ご家族様の意向など伺っています。毎月のカンファレンスで課題・ケアの在り方を話し合い、ケアの方向の確認を行い職員はケアの工夫、気付きを記録に残し 介護計画に反映させています。	家族の意見を聞き、毎月のカンファレンスで話し合い、介護計画に反映している。3ヶ月ごとに見直しをしている。参加できない職員が、意見書を提出することで、全職員の気づきをつなげている。経過記録の記録のあり方について検討したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録へ職員の気づきや入居者様の発言、変化などを記載し、介護計画の見直しに役立て情報交換し実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携・短期利用・受診を活かして、柔軟な支援やサービスができるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会、文化祭、納涼祭などに参加し、地域の方との交流を図っております。参加時には、お知り合いの方がいらっしゃることもあり、楽しませております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に、往診を受ける医療機関がかかりつけ医になる事を説明し、了承頂いた場合にはご本人、ご家族様の希望を尊重し、かかりつけ医から指示・助言・説明を受け適切な治療が受けられるよう支援しています。	入居時に、事業所の協力医による往診とそれ以外の受診の付き添い(家族対応)について説明をして、受診する医療機関を選択していただいている。協力医からの他科の紹介と受診結果報告をすることや、薬剤師もまじえた薬などの相談を行うことで、医師との密な情報交換が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を十分に活用しています。日々の気づきや変化を訪問看護師に伝え、往診医へ上申し指示を頂き、その内容も訪問看護師に伝え必要に応じて受診しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中もご家族様へ状態について、密に連絡を取り合っております。必要に応じて病院に伺い、早期退院できるよう連携しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、ご家族・医師・訪問看護師と連携を取り、現状の状態説明も、管理者からは勿論の事、医師・訪問看護師からも説明頂き随時、方針を決めていきます。	入居時に、看取りを行う方針を伝え、状況変化に伴い、医師から病状説明と治療法について説明が行われている。揺れ動く家族の気持ちを大切にしながら、医師や訪問看護と連携を図り、看取りの計画書を作成し支援している。家族の宿泊も可能である。また、看取り後は、振り返りを行い、次の支援に活かせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はAED講習・普通救命講習を受けています。危機管理マニュアルも整備しています。事故発生時には迅速な行動が出来ない事が予測されるため、一人で対応しようとせず、応援を呼ぶことを勉強会で学び励行しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、入居者様にも参加いただいております。初期消火方法・避難経路など災害時に迅速に対応できる体制をとっております。定期的に消防設備や停電時などの勉強会も開催しています。	年2回法人での昼夜を想定した防災訓練が行われ、法人内施設と近隣施設との協力体制がある。今後、火災や地震だけでなく洪水などを想定した訓練も視野にいれたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修・勉強会で学び、申し送りや注意喚起を行っております。これまで生きてきた時代背景を考えると、その方、その方に見合った言葉かけを失礼のないよう、命令口調などにならないよう努めております。	法人内・外部研修で学び、管理者は、その人にあった声かけをしながら、親しさや慣れにより、度が過ぎないように注意している。接遇の担当職員が、利用者の整容にも気を配り、触れることなどを通して接することで尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手に分かり易い言葉を用いてご希望に添えるよう努めております。外食会や外出時には、メニューや好きなものを選んでいただき、食したり購入しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決まっておりますが、希望に沿ったレクリエーションや、手作りおやつ・手作り夕食のメニューを入居者様に伺って取り入れ、実施しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは好みの服を選んで頂いたり、月2回の訪問理美容で、カット・カラー・パーマを楽しんで頂いております。ご自身で整容出来ない方は、職員にて整容介助を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備としてランチョンマットやお茶を配って頂き、下膳などの片づけも行っております。手作り夕食・手作りおやつでは、入居者様の意見も取り入れ企画し、調理をする楽しさを感じて頂いております。	関連会社から食材が届き、職員が調理して提供している。毎年趣向を凝らし、今年度は都道府県各地の代表料理を毎月利用者と一緒に作り、一緒に食べているなかで、話題の提供となり、好みの他新たな発見につながっている。各ユニットで、利用者の意見をもとに、テレビをかけたり、好みの音楽をかけたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はグループ内の企業に委託し、栄養士が作成しております。食事摂取量が少ない方には補食を提供したり、好みのおかずなどをご家族様に用意、若しくは購入して頂き食事形態や盛り付けの工夫を行っております。水分量の少ない方はゼリーを提供したり、味に変化を加え工夫しています。水分量は記録に残して情報共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前のパタカラ体操で唾液の分泌を促し毎食後、口腔ケアを行っております。ご自身で磨かれる方でも、職員による口腔内の確認を兼ねて磨き残しの確認を行い、出来ない方には、うがい薬を染み込ませたガーゼを使い口腔内の清潔保持に努めています。口腔内のトラブルは歯科往診医へ上申します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗については、決められた排泄介助だけでなく、時間をずらすなど工夫しています。羞恥心に配慮した声掛けや、トイレでの排泄が可能であれば、職員が介助に当たりオムツの使用を少なく出来るよう支援しております。カンファレンスでも議題に上げ、取り組んでおります。	排泄パターンにあわせた誘導の他、怒る・そわそわするなどの行動をみて、トイレへの誘導を行っている。居室にトイレがあることで移動距離が比較的短いことを活かして、できるだけトイレで排泄することを大切に支援しており、できることをしていただくことを基本に、自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の判断により、便秘傾向の方には下剤が処方されています。下剤で排泄が無い方は、訪問看護師にて排便など行っております。便秘の予防として、水分摂取を促すため、飲み物を工夫をし水分摂取量を記録に残しております。排泄時に腹部マッサージも行っていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、入浴を嫌がる方については話し合い不快な思いをさせないよう心がけています。一般浴の難しい方については、リフト浴のあるユニットで入浴を行っております。	数年前から、これまでの生活に近い夕方の入浴を支援している。入浴を楽しめるように、これまでのれんをかけて雰囲気づくりをしたり、入浴フェアと入浴剤を調べたり、ゆずの他ドクダミを使ったりしている。嫌がる方には、羞恥心に配慮して同性介助に努めたり、シャワーハットを使ったりしながら、無理強いせずに支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態に応じて、お部屋で休んで頂いたりいつもと違う変化・サインを職員が察する事が出来るよう生活リズムを観察し、支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬の内容、既往歴などが何時でも確認できるよう、各ユニットの職員室のカルテ内に掲載しております。それを基に職員は服薬の支援をし、症状・状態変化を確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読んだり、カラオケをしたり、洗濯物や雑巾縫いなど、得意なものを支援できるよう努めております。嗜好品についても、ご家族様にてお持ち頂いたり、購入して頂き食事を楽しく召し上がっております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	洗濯物干しや食事の準備などの家事を兼ねたものや、散歩は日常的に実施しております。外に行きたい希望があった際も、散歩をして気分転換を図っております。外食会・外出行事などを定期的に行い、外出の機会を設けております。	毎日2~3名の利用者が交替で散歩に出かけ、外気にふれる季節を感じる機会となるようにしており、花を摘んだり写真を撮影したりしている。その他、室内行事で他のユニットに行くことも、大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていませんが、外出時にはお店や露店などで、飲食物を買って頂き、召し上がるなど、お買い物を楽しんで頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状などの郵便物もご本人様へお渡しし、必要に応じて投函もしております。ご家族様に会いたい様子が見られたり、ご意向があった際は連絡をとり面会のご協力をお願いしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りを職員が手作して装飾しており、大きな窓や吹き抜けなど開放的な空間を演出し、心地よく過ごしていただいております。	レクリエーション担当の職員が、季節のぶどうやコスモスなどをあしらって飾りつけを行っている。ときには、散歩に出かけた時に花をつみ飾り、季節感を味わってもらえるようにしている。空調管理に注意を払い、状況にあわせて消臭剤を使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室から集まり易い空間を演出しております。好みの場所が決まっている入居者様も多く、会話を楽しんだり、雑巾縫いをしたり、テレビを観たり共有空間で、思い思い過ごされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドなど、必要最低限の物は施設で用意させて頂いております。ベッドの位置も本人や家族の意向に沿った配置にし、馴染みのある家具、写真、雑貨などご自宅の生活を再現できるような環境作りに努めております。	家族や本人の意向により、油絵や位牌、好きな猫の雑貨やぬいぐるみなどが持ち込まれている。職員は、位牌の水などを変えたり、意見をもとにカレンダーを掛けたりしている。また、状況にあわせて、本人のつくった作品やお誕生カードを飾ったりして、環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は手摺りを完備しており、車椅子や本人持ちの押し車なども使用し、自立支援に努めております。自立歩行が困難な方は、職員の付添いでの歩行や離床センサーを使用し付き添うことが出来るよう配慮しております。		